九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 **No.363**

2021(令和3)年9月4日(土)発行

◀本会のシール(デザイン：朝倉悠三さん)

■ **はらまち九条の会** は、戦争放棄の憲法9条を守り、永久に「戦争をしない国・日本」であることを願い、「鈴木安蔵の出身地の九条の会」を誇りに活動する自由な市民の会です。支持政党や宗教を問わず、何の拘束もなく、匿名でも入会できる気軽な会です。■結成は2005年12月で、今年で16年目。隔月にこんな会報を発行。■会員は南相馬市原町区を中心に390名。会費は年千円です。

≪近づく衆議院選挙≫ ***選挙に行きましょう！***

憲法9条を愛する議員を増やしましょう

目前の衆院選について“弱小野党の頼りなさ”とか“ガラスの選挙協力”などと、半ば冷やかしの言説が横行しています。しかしそれらは結局、国民の多数が招いた事態によるものと言えましょう。思い出しましょう。前の選挙で「あんな人達に負けるわけにはいきません」と言われた私達にはもう勝ち負けなどの問題ではないことを。

とにかく、自民党の政権にはぜひご退場いただきましょう。

①反自民党の野党に投票しましょう。キャスティングボートを握ろうなどと目論む親自民的野党にはご注意を！

②与党を半数以下に追い込むための、野党間の選挙協力を応援しましょう。自民党だって派閥があり、それぞれの思惑で動いているのですから、野党もそれぞれの考え方があって当然です！

③原発ゼロ法案や核兵器禁止条約に賛成するよう、野党候補者に声を届けましょう。コロナウイルス問題について、現政権で評価できる政策や具体策は何一つなかったのではないでしょうか。いずれにせよ、私達国民にとって、使いものにならない政権や政治家、官僚など必要ないでしょう。なぜなら主権者は私達国民ですから。

最後に「憲法九条をはじめとする現憲法」を愛してやまない議員を増やしましょう。

2021年 9月 4日　　**はらまち九条の会事務局一同**

次の首相は「核兵器禁止条約」の署名と批准を

広島・長崎市長の要求を無視し 冷淡だった菅義偉首相

◆8月6日広島原爆の日。平和記念式典で松井一實広島市長は、一刻も早く核兵器禁止条約に参加するよう日本政府に求めた。ところが菅首相は式典挨拶で「唯一の戦争被爆国」など最も大事な個所を読み飛ばし、広島を“ひろまし”、原爆を“げんばつ”と読むなどミスをくり返しました。

◆9日長崎原爆の日。菅首相は平和式典に1分遅れて着席し、秘書官を責めました。田上富久長崎市長は平和宣言で「長崎を最後の被爆地にと、政府に核兵器禁止条約の署名と批准を求めます」と迫った。しかし、あいさつは原稿を読むだけで、核兵器禁止条約への言及もなく、冷淡でした。

◆15日戦没者追悼式。首相式辞で訴えていた「積極的平和主義」は、実は日米の軍事的な一体化や自衛隊の海外派遣を正当化する、安倍政権による誤った勝手な解釈です。

国際的な定義では、戦争のない状態を**「消極的平和」**と言い、戦争がなくても病気、貧困、飢餓、人権抑圧、環境破壊などの暴力のない状態を**「積極的平和」**と言います。日本国憲法の前文で述べられていることですが、菅首相は全くの不勉強です。

No.363

"70代・80代は戦争を語れる最後の世代。語り継ぐのは私たち世代の責任です"

"九条科学者の会"呼びかけ人 益川敏英さん死去 7月23日 81歳

戦争を憎み、気さくな方でした。

名古屋市出身。2008年にノーベル物理学賞を受賞。

5歳の頃、目の前に焼夷弾が転がってきたが、不発で命が助かった。「日本が無謀で悲惨な戦争を引き起し、父の家具工場が無に帰した」、「私は戦争のことを語れる最後の世代と位置づけ、語り継ぐことは自分たちの世代の責任」という強い信念を持ち、権威に屈しない自分を貫いた。

科学者は戦争について考えるべきで、大学で防衛省や米軍の助成を受けた軍事研究を行う近年の風潮を批判し、反戦や護憲を訴えていました。

報告 「鈴木安蔵を讃える会」会員等270名に

鈴木安蔵

昨年、「鈴木安蔵を讃える会」を発足させ会員募集を開始しましたが、全国からご入会やご協力金も相次ぎ、9月4日現在270名の応募がありました。

特に6月18日の『東京新聞』で本会が大きく報道され、関東地区の方からの入会希望が急増し、メディアの力に驚き、皆様にも大変感謝しています。

現在、旧宅の一時的修繕を終え、今後の活動について役員会で検討していますが、継続して今後も会員の拡大をめざしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 **<報告・「鈴木安蔵を讃える会」会長 志賀勝明>**

○また**<下コピー>の6月20日『東京新聞』の「本音のコラム」**で、元文部科学事務次官前川喜平氏により、「鈴木安蔵を讃える会」や鈴木安蔵のことが紹介され、「日本国憲法は決して押し付けではなく、植木枝盛や吉野作造、森戸辰男、そして鈴木安蔵の努力と試練によるもの」と明確に指摘されています。

21 特報 11版 2021年(令和3年)6月20日(日曜日) 東

本音のコラム

前川喜平

鈴木安蔵

十八日付の本紙夕刊は、福島県南相馬市の鈴木安蔵の生家を記念館とする計画を伝え、鈴木を「日本国憲法の間接的起草者」と紹介していた。

鈴木は京都帝大在学中に治安維持法違反で投獄された。出獄後の一九三三年、吉野作造の支援による研究成果「憲法の歴史的研究」を著すも即日発禁処分とされる。

一九三六年、鈴木は自由民権運動の思想家植木枝盛が起草した「日本憲法」を発見する。そこには「日本国ノ最上権(主権)ハ日本全民ニ属ス」と書かれていた。

敗戦後、鈴木は「憲法研究会」に参画し「憲法草案要綱」を起草。この時「(植木ら)祖先以来の伝統を生かして本当の民主国家を造らなければと意欲に燃えた」と後に語っている。GHQはこの憲法草案の自由主義的・民主主義的内容を高く評価し、GHQ草案を起草する際の参考とした。

研究会の一人、森戸辰男にも獄中経験があった。衆議院議員となった森戸は帝国議会の委員会で生存権の追加を提案。今の二五条になった。

憲法九七条は「この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」であり、「過去幾多の試錬に堪へ」たものだと言う。そこには植木枝盛や吉野作造、森戸辰男や鈴木安蔵の努力と試練が含まれている。この憲法は決して押し付け憲法ではない。(現代教育行政研究会代表)

2021.6.20